

一般質問



なりさこ 健児 (佐伯市)

今回の一般質問では、◇移住定住、◇健康寿命日本一(取り組みと方針/食育)、◇障がい者のスポーツ参加機会の充実、◇県産ブランドイチゴ「ベリーーツ」(販売・広報戦略/技術的課題)、◇不登校児童生徒への学習機会の確保の5点について質問をしました。

県産ブランドイチゴ「ベリーーツ」について

(質問) ベリーーツは、鮮やかな見た目、甘さと酸味のバランス、香り、クリスマス需要に合わせた早期出荷に向くこと等から、期待の中でデビューしたが、3年が経過し課題も見えてきている。「ベリーーツなら間違いなし」といつ、プレミアム感を取り戻すための販売広報の戦略が必要。県としてベリーーツ栽培が広がるにない現状をどう分析し、どのように単価の引上げを図っていくのか戦略を伺う。

(農林水産部長) ベリーーツは色や食味が優れ、大玉傾向が特徴。高単価時期に収量が多く、この時期だけでも、さがほのかの平均的年間販売額の1.4以上を売

り上げる方もいる。優良事例を普及し、生産者のベリーーツ栽培意欲が増進するよう、技術・流通販売まで県を挙げて取り組む。販売戦略は、県内外百貨店や高級量販店をターゲットに、大玉パックや化粧箱のような高価格アイテムの出荷比率を拡大、全体の単価向上を図っていく。

(質問) ベリーーツ生産農家へお伺いしたところ、手入れと収穫期が重なるため作業が追いつかず、2反のハウスを5人で管理している状況であった。2反を夫婦2人で管理できる「さがほのか」と比較しても非常に大きな人件費の負担。年間収量も、さがほのかに比べ700キログラムほど少なく、栽培面積が増えないのも当然である。生産者からは作りやすい品種を自由に選択したいといった声も。こうした声に対する県の考え方と、技術的課題への対応策を伺う。

(農林水産部長) ベリーーツは摘果や葉かきなど手間がかかるが、それを克服して生産する価値ある品種。生産者に魅力を感じてもらうため、適正な施肥管理や温湿度管理、病害虫対策等による高収益技術の構築に取り組む。県内15か所に設置した実証圃では、モデルとなる経営体が育成されている。特性を生かせる技術普及の為、意欲ある生産者の組織化を進める。手間のかかる作業は、草丈をコントロールする冬場の温度と電照時

間の調整、脇芽の整理方法等の課題解決に向け、令和4年度中に成果が出るよう研究を進める。県では、生産販売までをパッケージで短期集中的に支援、生産者・農業団体と一体で県の顔となるベリーーツの産地拡大に取り組んでいく。

一般質問



ただ 玉田 (豊後大野市)

持続可能な開発のための教育(ESD)について

目標としています。文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールをESDの拠点校と位置付け、その加盟校を増やし、加盟校間のネットワークの強化、活動の充実を図っています。

2017年及び2018年には「持続可能な社会の創り手」の育成について明記された新学習指導要領が公布され、既に新要領が実施されている小・中学校に続いて、来年度からは高等学校においても実施されることになりました。

私の地元、三重総合高等学校もユネスコスクールに認定され、地域の課題解決に係る探究活動に大学、行政、企業等と取り組んでおり、三重駅前通りの再開発におけるデザインについて、地域行事の中で実証実験を行い、市に対して提言を行っています。

次代の社会を創造する子どもたちが、ESDという形で持続可能な社会について学ぶことは、人口減少等で地域社会の存続そのものが危ぶまれる中、大変意義のあることです。

しかし学校の取組のみでESDを推進することは困難であり、学校が地域社会と理念を共有し、連携・協働して取り組むことや、学びの深化、活動の質の向上に向けて企業等、様々な主体とのネットワークを構築するが求められると思います。

本県のESDの認識はどうか。またどのように進めていくか。そしてESDに取り組む人材の育成と確保は。それぞれの考え方を聞きました。

答弁に立った岡本教育長は、「ESDについて本県では、ユネスコスクールの取組を先行事例とし、総合的な学習・探究の時間で、各教科の学びを活用しながら、地域社会の課題解決に向けた学習を進めている。取組に当たっては、多くの学校で市町村や外部機関との連携が図られており、例えば姫島小学校では、豊後大野市内の小学校とジオパークを通じた交流会を行い、村の支援を受けながら地域の魅力発信を行っている。また、国東高校や別府翔青高校では、バーチャル市役所と銘打ち、市が抱える課題の解決に向けて、提言する取組を行っている」と述べ、人材の育成と確保については、「宇目緑豊中学校や大分雄城台高校が国の研究指定を受け、学校全体でESDに取り組む手法の研究を行っており、その研究成果を波及させることで、県全体の指導力向上に役立てている」として、「今後、地域社会の課題解決に向けて取り組むことのできる児童生徒を育成するとともに、地域と協働してESDに取り組む人材の確保を図っていく」と述べました。

ESDが本県で積極的に取組まれることを願っています。